ABBYY

グローバル企業がABBYYを信頼する理由

テクノロジーパートナーの選定は、企業のリーダーにとって最も重要な意思決定のひとつです。それは単にソフトウェアを購入するという話ではなく、組織の効率性、拡張性、そして将来のイノベーションの方向性を選ぶことを意味します。バズワードや過度な期待をあおるスタートアップがあふれる市場において、一過性の流行と、成功を支える確かな基盤と見極めることは容易ではありません。

ビジネス上、極めて重要な業務プロセスが関わる場面では、可能性だけに期待するわけにはいかず、 確実性が欠かせないのです。複雑なデータの微妙なニュアンスを理解し、厳格なコンプライアンス要件を的確に満たし、既存のITエコシステムへシームレスに統合できるソリューションが求められます。だからこそ、世界中の数千の組織がABBYYに信頼を寄せているのです。ABBYYは単にドキュメントを処理するだけではなく、より賢明なビジネス判断を下すために不可欠な、明確さと精度を提供するからです。

比類なきマーケットリーダーシップ

リーダーシップとは、軽々しく名乗る称号ではありません。それは、35年以上にわたる継続的なイノベーションの積み重ねによって当社が築き上げてきた地位なのです。多くの競合が今ようやくドキュメントオートメーションの重要性に気づき始めている中で、ABBYYはその分野そのものを定義してきました。当社は、エンタープライズデータが雑然としており、複雑で、かつ極めて重要なものであることを理解しており、長年にわたり市場で培ってきたその実績は、お客様にとっての安定性へと直結しています。ABBYYとパートナーシップを結ぶということは、技術革新や経済環境の変化を幾度となく乗り越え、そのたびにより強固な存在へと進化してきた組織と提携することを意味します。ABBYYは、金融機関から医療機関に至るまで、世界中で1万社を超えるお客様を支援しており、すべてのお客様が機密性の高い情報の取り扱いを当社のプラットフォームに託しています。こうした豊富な経験の蓄積により、ABBYYは課題が顕在化する前に先回りして対応することができ、新規参入企業では到底及ばないレベルの戦略的パートナーシップを提供しています。

ABBYY

主要アナリストの評価

ABBYYのリーダーシップは、自称ではありません。確かな実績によって証明されています。世界で最も信頼される業界アナリストが、ABBYYが市場の最前線に立つ存在であることを一貫して評価しています。こうした第三者による評価は、ABBYYの技術力、ビジョン、そして実行力を客観的に示す指標となっています。

ABBYYは、以下をはじめとする主要な評価において、常にリーダーとして位置づけられています。

- **Gartner® Magic Quadrant™ :** ビジョンの完全性と実行力を高く評価。
- **Everest Group PEAK Matrix® :** インテリジェント文書処理（IDP）分野において7度にわたりリーダーに選出。継続的な卓越性と市場への影響力を高く評価。
- **IDC MarketScape :** 2度にわたりリーダーに選出。エンタープライズニーズとの高い戦略的整合性を証明。

これらの評価は、ABBYYのロードマップがエンタープライズオートメーションの将来像と整合していることを裏付けています。アナリストがABBYYをトップに位置づけることは、高い信頼性が求められるオートメーション領域において、ABBYYが「安全で、賢明かつ戦略的な選択肢」であることを市場に示すシグナルとなっているのです。

専用AIの力

生成AIの台頭は、オートメーションを巡る議論のあり方を大きく変えましたが、同時に新たなリスクももたらしています。汎用的な大規模言語モデル（LLM）は、多様な用途に対応できる一方で、個別のビジネス業務に求められる文脈を十分に把握できないことがあります。そのため、誤った情報を生成（ハルシネーション）したり、データを誤解釈したり、厳格なコンプライアンス基準を遵守できなかったりする可能性があります。

ABBYYは、これとは異なるアプローチをとっています。当社が重きを置いているのは、専用AIです。ABBYYのモデルは、ドキュメントおよび業務プロセスに特化して学習されています。この専門性は、LLMと組み合わせることで相乗効果を発揮します。ABBYYは、専用に構築されたDocument AIを用いてデータを極めて高い精度で抽出・検証し、その検証済みデータをもとに、LLMを活用して要約や検索を行います。これにより、出力結果は単にそれらしく見えるものではなく、正確性と実用性を備えたものとなります。

AIを実在するドキュメントの事実に基づいて活用することで、推測に頼る必要をなくします。ABBYYは、説明可能性を基盤とした倫理的なAIを提供し、意思決定がどのように行われているのかを明確に理解できるようにします。このアプローチにより、バイアスを抑制するとともに、ESG目標の達成や規制遵守に求められる透明性を確保します。

ABBYY

様々なプラットフォームとの統合

どんな企業も、単独で業務を遂行しているわけではありません。多くの企業は、ERPやBPM、CRM、さらにはRPAボットといった複雑なアプリケーション群の上で業務を行っています。サイロ化された文書処理ソリューションは、業務を加速させる存在ではなく、むしろボトルネックになります。

ABBYYは、連携を前提に設計されたソリューションを提供しており、主要なオートメーションプラットフォームとの高度な統合を実現し、既存のIT投資を複雑化することなく、その価値を最大限に高めます。SAP、IBM、Pega、UiPath、Blue Prism、Microsoft Power Platformなど、どの主要プラットフォームを利用していても、ABBYYのソリューションを既存のワークフローにシームレスに組み込むことができます。

豊富なコネクターおよびAPIのライブラリにより、インテリジェント文書処理を迅速に導入できます。これにより、IT部門の負担を軽減するとともに、価値創出までの時間を大幅に短縮できます。クリーンで定型化されたデータが下流のアプリケーションへ自動的に流れ込み、実効性のあるエンドツーエンドの自動化を可能にします。

テクノロジーにおけるリーダーシップ

過去の成功に安住することは、ABBYYのDNAではありません。 ABBYYは、継続的な研究開発とイノベーションを通じて、インテリジェント文書処理の未来を積極的に切り拓いています。 技術リーダーシップへの揺るぎないコミットメントにより、ABBYYは常に最先端のツールをお客様に提供しているのです。

ABBYYは特許ポートフォリオを継続的に拡充しています。2025年だけでも10件の新たな特許を取得しており、コア技術の高度化を進めています。複雑なレイアウトを読み取る高度なOCRから、新しいドキュメントタイプに即座に適応する高度な機械学習モデルに至るまで、ABBYYは可能性の限界を押し広げ続けています。

さらに、IBM WatsonX.aiのようなプラットフォームとの連携は、ABBYYのアプローチの先見性を示しています。ABBYYは、倫理的AIに関するグローバルスタンダードの形成に積極的に関与し、技術が進化しても、企業利用において安全性・公平性・有用性が維持されるよう取り組んでいます。

確かな成功実績

エンタープライズの世界において、「実証済み」という言葉は非常に重みを持ちます。それは、そのテクノロジーが大規模な環境でも、プレッシャーのかかる状況下でも、現実の業務制約の中で確実に機能することを意味します。ABBYYは、ミスが許されないお客様のために、年間で数十億ページ規模のドキュメントを処理しています。

求められる責任の大きさを想像してみてください。 住宅ローン申請を扱う国際的な銀行から通関手続きを行う物流会社、患者データを管理する医療機関まで、いずれも正確性が極めて重要な業務環境です。ABBYYの導入により、多くのお客様が処理時間と運用コストの大幅な削減を実現しており、数か月でROIを達成するケースも少なくありません。

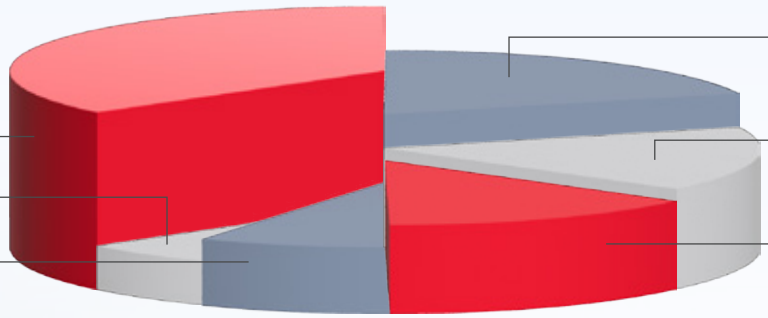
当社のプラットフォームは、実運用で鍛え上げられています。ABBYYは、厳格なセキュリティ基準を遵守するとともに、実行可能かつ監査可能なAIリスク管理ポリシーを維持しています。セキュリティと透明性が命運を分ける時代において、ABBYYは万全の態勢を整えているのです。ABBYYは、セキュリティを単なる形式的な確認事項ではなく、お客様に対する重要な約束として捉えています。

卓越性の基準

ABBYYを選ぶことは、不確実な世界において「確実性」を選ぶことを意味します。それはすなわち、実証された実績、将来に向けた明確なビジョン、そして今すぐ成果をもたらすテクノロジーを備えたパートナーを選ぶことなのです。ABBYYは、これまで負担となっていたデータを、戦略的な価値を持つ資産へと転換します。

> 業務プロセスの最適化を担う立場として、ABBYYのソリューションは生産性の向上とコスト削減の両面で、非常に大きな価値をもたらしています。
>
> Eric Melin, ING Bank | ING

業界別のお客様構成



ITサービス : 3,143
保険 : 513
ヘルスケア : 728
政府/公共部門 : 1,744
製造業 : 1,405
金融サービス／銀行 : 1,228

ABBYYの専用AIソリューションをご覧ください。

ABBYY

詳しい情報については www.abbyy.com をご参照ください。
お問い合わせは、以下のURLに記載されているABBYYまでご連絡ください。www.abbyy.com/contacts.

abbyy.com

© ABBYY 2026. ABBYYは登録商標または商標であり、ABBYYグループ会社のロゴ、会社名（またはその一部）、あるいは製品名の一部であることもあり、それぞれの所有者の同意なしに使用することはできません。DSD-1638